

出血した時の手当を学ぼう！

一般に体内の血液の約20%が急速に失われると、出血性ショックという重篤な状態になり約30%を失えば生命に危険を及ぼすといわれています。そのため、出血量が多いほど、止血手当を迅速に行う必要があります。

止血処置(直接圧迫止血法)の手順

- ① 出血部位を確認し、直接血液に触れないように、ゴム製手袋、又はビニール袋をできるだけ使用する。(感染対策)



感染症の予防のため、できるだけ素手では触らない！！



- ② 出血している場所を清潔なタオル等で押さえる。(ハンカチやガーゼでもOK)



- ② 太ももなどの大きい血管からの出血は両手で体重をかけて押さえる。



★119番通報の目安

- 出血が多く、直接圧迫止血法を実施しても止まらない。
- 冷や汗をかいており、顔色が悪い。
- 骨が飛び出している。

等の状態であれば、すぐに119番通報してください。

救急車が到着するまで直接圧迫止血法を続けてください。

こんなときどうする??



Q1 圧迫止血以外にも方法はありますか？

A ベルトや包帯を利用した即席の止血帯で手足のつけ根側を縛る方法もあります。
しかし、この方法は神経を痛める可能性があるため、訓練が必要です。

Q2 傷口から骨が出ている場合、どうすればいいですか？

A 腕や脚が変形し、骨が飛び出ている場合は、無理に元の位置に戻さず、直ちに119番通報をしてください。

Q3 圧迫止血で血が止まらない場合、どうしたらいいですか？

A 圧迫位置がズれてない場合は、押さえる力が弱い可能性があるののでしっかり押さえるようにしてください。
圧迫位置がズれている場合は、新しいガーゼ等を傷口に当てて、再度押さえつけてください。

Q4 怪我をしている所に物が刺さっている場合はどうしたらいいですか？

A 物が刺さっている場合は、決して抜かないでください。(刺さっている物が、止血の役割をしていることがあり、無理に抜いてしまうと大量に出血する可能性があります。)

Q5 ハンカチやタオルなどの布製の物がない場合、ティッシュを使用してもいいですか？

A ティッシュは、傷口に繊維が残るため、よくありません。なるべく布製の物で行ってください。

Q6 鼻血が止まらない場合、どうすればいいですか？

A 座って軽く下を向き、鼻を強くつまみます。これで大部分は止まります。出血が止まっても、すぐに鼻をかんではいけません。
このような手当で止まらない場合には、医師の診察を受けましょう。

Q7 他にどのような応急手当がありますか？

A 消防本部では、各種救急講習を開催しています。詳しくは、玉野市のホームページを確認のうえ、警防課まで連絡をお願いします。

☎0863-31-5713



消防署からのお願い

感染症対策のため、応急手当を実施する際は、できる限りマスクを着用し、手当を行った後は、手洗い及び手指消毒をお願いします。